

# 湘紅会報 2024年3月 第10号

設立 1991年

会員 90名

## ご挨拶

代表世話人 相田康宏



2024年を迎えました。今年  
は年初から能登半島地震  
があり騒然としたスタートに  
なりました。被災地の一日も  
早い復興をお祈り申し上げます。

湘紅会の皆様には、お元気にお過ごしのこととお慶び申し上げます。湘紅会は創設から34年目を迎え、会員数90名、平均年齢82歳となっています。湘紅会の5つの部会も活発に活動を続けており、今年も少しでも多くの皆様にご参加いただけるよう、各部会では知恵を絞って活動計画を練っております。どうぞご期待ください。

5年にわたるコロナ禍もようやく沈静化の様相を見せており、穏やかな日常生活に戻ることを喜びたいと思います。しかし油断は禁物です。日々のご用心を忘れずをお願い申し上げます。湘紅会の活動においても皆様が安心してご参加いただけるよう万全の注意を払い、世話人一同、今年も皆様をお待ちしております。

## 総務から

湘紅会に関する意見、連絡は総務・斉藤正視  
[ms0744s5@gmail.com](mailto:ms0744s5@gmail.com) 宛 お寄せください。

## 2024年度世話人

代表世話人： 相田康宏

世話人：

倉上雅彦（ゴルフ会） 川嶋寿彦（湘遊会）  
塩川明男（倶会） 三浦健児（万歩会）  
宮田 廣（酒悦会） 斉藤正視（総務）

## 部会活動

### 万歩会



（2023年4月 小石川植物園）

2023年は、コロナの5類移行に伴い少し遠出が出来たのでは、また、歩いた後、皆で楽しく飲めるのではと期待したのですが、引き続き自己責任のもと近場を少人数で歩いた1年となりました。

4月に小石川植物園の観桜に出かけた以降は、大船田谷洞窟、衣笠菖蒲園、葉山、金沢文庫、鎌倉、三溪園と近場を回り、各回の参加者は10名程度となりました。12月の中華街忘年会には22の方が参加され、大変賑やかな宴となりました。2024年度は、遠出を交えて、魅力ある企画を準備しております。

## ゴルフ会



(2023年12月@芙蓉CC)

2023年度は、コロナ禍も落ち着き、例年通り年4回のコンペをつつがなく開催しました。また新会員2名を迎え、会員数も30名に回復しました。

2024年度も、3月、7月、10月、12月の年4回開催します。また、今年も新会員が2名加わり、会員数は32名となりました。引き続き、芙蓉CCの協力を得ながら、コンペ参加者全員が、和やかに楽しくプレーできるよう、世話人一同、柔軟な運営を心がける所存です。

## 湘遊会



(2023年5月大滝落語会@鎌倉市生涯学習センター)

湘遊会は2か月に一度の開催を目指しており、2023年は美術鑑賞2回、新たに湘紅会に参

加された大滝長孝氏（花伝亭長太楼）による落語会、歌舞伎鑑賞に加え、新しい試みとして神奈川フィルハーモニーのコンサート鑑賞、高校野球神奈川県予選準々決勝(慶応 vs 横浜創学館)観戦を取り上げました。

毎回、企画に悩んでおりますが、2024年度も美術鑑賞、落語、コンサート、歌舞伎等を楽しんでいただく予定です。皆様方の積極的なご提案、ご協力をお願いいたします。現在の会員数は35名です。

## 唄会

先ずは悲報です。唄会の会場として長年お店を提供して頂いた「竜胆」の小織ママが今年1月の唄会直前に逝去されました。ここに謹んでご冥福を祈りたいと思います。



さて唄会は月一で顔を合わせ、時の話題や昔の思い出話、あれやこれやで暫く喉慣らしをして、調子の出た人から始まります。持ち歌を磨く人、新しい歌に挑戦する人、歌のジャンルも色々です。ところで、歌うことは喉の筋肉を鍛え誤嚥防止につながります。また歌うには息を大きく吸い込むため肺の活動も活発になります。健康にとっても良いのです。さあ皆さんもご一緒にどうぞ！現在会員数は現在19名。これからも楽しく元気に歌っていきたいと思います。

## 酒悦会



(2024年1月@鎌倉「あら珠」)

鎌倉市とその周辺でお酒をこよなく愛するメンバーが集い語らう会です。季節ごとの会に加えて新年会（あるいは忘年会）で年5回程度の開催を目指しています。開催する店舗によって呑むお酒の種類、肴もさまざまです。メンバーは年齢の割にはよく呑みますが、気分によっては有志で二次会に繰り出す程度の余力を残していますので、初めての方でも心配なく参加していただけます。お問い合わせを頂ければ、次回開催の予定をご案内します。宮田 廣：電話 080-5009-1850、メール yukinoshita\_miyata@jcom.zaq.ne.jp

## 新入会員から

### 湘紅会新入社員

宇野 耕



1979年入社で主に財務畑を中心に勤務してきました。弱冠67歳の若手(?)です。昨年7月に東京から藤沢市辻堂に引っ越してきました。趣味は、サーフィン、

ゴルフ、山登りです。ビーチまで徒歩3分なのでサングラで行きサーフィン。また、ゴルフは芙蓉カントリーまで車で10分と湘南ライフを楽しんでいます。今年のお正月も江ノ島から上る初日の出をマンションの屋上から眺め、2日は箱根駅伝を徒歩5分の浜見山の交差点で観戦しました。

丸紅は奉職26年で退職。その後、外資系証券やコンサルティング企業で働いていますが、丸紅で得た薫陶や上司・後輩の皆さまとの関係はかけがえのないもので人生を支えています。今般、湘紅会へ入会し、楽しい時間を一緒にできるものと確信しています。お酒と美味しいものには目がありませんので是非お誘いください。

## 「読むゴルフ」のすすめ

柴田 政美

昨年5月に入会しました。ゴルフに加えテニスも長いことやってはいますが、“二兎を追う者は一兎をも得ず”というのが実感です。最近の後



期高齢者の仲間入りで専ら健康維持の為、テニスにウエイトをおいています。横浜山手のテニスクラブ(YITC)でシニア仲間とプレーを楽しみ、各種公益行事(国際交流、子供テニス教室等)にも参加しています。

今回は「自分でやるゴルフ」と「TV等で観るゴルフ」の他に「読むゴルフ」という領域があり、その分野での第一人者である夏坂健をご紹介します。彼は、週刊ゴルフダイジェストの「Armchair Golfer」にも数々のウィットとユーモアに富んだエッセ

セイを掲載してきました。彼によれば、ジョークの質は国民性によって大いに異なるもの、イギリスではプレー中のポカに揶揄が集中するのに対してアメリカとスペインではお色気が中心、加えて人間観察にも妙味がある。一方、日本ではスコア辺倒、苦虫を噛み潰した無言の衆がひたすら小さな数字を追いかけるだけで笑いがないと（我が湘紅会ゴルフでは当てはまらないと思いますが…）。

紙面の都合もあるので笑えるエピソードを2～3選んでご披露します。

・A. パーマーの話…第1打はあろうことか大きなゴムの木の股にチョンと乗ってしまったが、その光景はクスクス笑いを誘うに十分エロティックであった。その後何とその高さまで登ってアイアンのフェースを逆にして打ち見事にグリーンオンして1パットで仕留めたとか。その後パーマーは「あの木はオスカね、メスカね？」とキャディに尋ねたとか。

・H. ブラッドショーの話…ボールを打つには障害がないラフに打ち込んだがアンプレヤブルを宣言。後で関係者が確認に行くとそこには可憐な紫色の花が咲いていたとか。人間性が問われる場面だが、彼はショットより花を選んだのだ。

・ノータッチの話…あるホールのグリーン近くまで来たとき、何と一人のプレイヤーのボールが比較的新しい動物の糞の上に乗ってしまった。仲間にアンプレヤブルを申請したが残りの3人はあるがままに打てと一蹴。彼は仕方なくそのまま打ったところボールはフェースにくっついてしまい前に飛ばなかった。それこそ全員が悶絶寸前の状態で笑い転げたとか。

ゴルフ愛好者の皆さん、時には Armchair Golfer になって「読むゴルフ」を楽しんでは如何でしょうか？

## 会員随想

### 私の健康法

松本俊一郎



私は、97歳の今日まで旅行中を除き日記を書いています。おかげさまで何とか健康に生活しています。今から考えると、退職後から地区会長として歩く会を先導したり、湘紅会の万歩会に

参画したり、民間ダンス協会役員をしたりと活動し、その間、北穂高岳・槍ヶ岳など北アルプス、スイス、ヒマラヤの山歩き、四国遍路など積極的に体を動かしてきたことが良かったと思います。80歳になり、妻の認知症発病で亡くなるまで看病に専念しましたが、90歳になってから、洋光台の県営施設に入居しました。毎日スクワット50回に始まり、8千歩を目標に歩いています。周りを見ていると、歩けなくなると急激に体力が衰えて動かなくなります。入居者は男女合わせて約100名ですが、現在、男性で3番目の長寿者になりました。私の場合、歩いていることが健康長寿の秘訣だと思います。

### 楽しいこと 見つけて

田中リカ



東北開発や常磐炭田開発に貢献して、いわき市の小太郎町公園に銅像のある祖父、鯉・鮪の船主を父に小名浜で生まれました。8歳で父を亡くし、都立国立高校から丸紅

飯田に入社。B/L を持参した船会社で初対面の男性にランチを誘われ、7年後に結婚。商社合同の乗馬部「春蹄会」に入り、ゴルフは、葉山や鎌倉でコースデビューするも女性は私のみ。

勤務年数が短い女子社員が多いなか、私は勤続16年。妊娠9ヶ月で退職した年にはロッキード事件が勃発。退職記念に丸紅が分譲した富士桜別荘地を購入。安倍前総理もすぐ近くに別荘をお持ちで、亡くなった際には、地元の方々とお花をお供えしました。

30年前、タウン誌編集長をしていた頃、丸紅のQE2(クイーンエリザベス)案件の広告を掲載したご縁で、ハワイからの船旅を体験。コンビニ am・pm 社員の時は、ガソリンスタンドが併設されたのを機に危険物取扱者資格を取得したら、引き抜かれてガソリンスタンドの店長に。

60歳で訪問介護の仕事に就きました。コロナ前は、クアチア、ボスニアなどへ海外旅行、今は国内の旅行を楽しんでいます。昨年夏は、7人の家族旅行で北海道に行き、帰ってきたら家族3人がコロナに罹患してしまいましたが。

主人の7回忌を終え、これからは、介護の仕事・畑・旅行・湘紅会の行事を楽しみます。大切な家族・友人・仲間にも恵まれました。年初も万歩会で早春の鎌倉七福神を巡り、海を眺め、梅の香りのなか、おにぎりをほおぼる幸せ。感謝!!

## 日本のゴルフ業界の今

鈴木利和

仕事柄、取材などを通じて耳目に触れるゴルフ業界のお話です。

2000年には年1回以上ゴルフをする人(参加率)が国民の13%もあったゴルフ人口が、2022

年には8%、856万人と減少しています。2010年ごろから業界で囁かれていた「2020年問題」、団



塊の世代が70代となりゴルフから離れていくというものでしたが、杞憂に終わりました。また2020年以降のコロナ禍にあって参加率がグッと減りましたが、ソーシャル・ディスタンスが保たれること、他に遊興費の使い道がなく若い人たちが参加してきたことで、減少傾向は一旦おさまりました。しかしながら、今言われているのが「2025年問題」。いよいよ団塊の世代が後期高齢者となり、健康寿命や免許証返納などによるアクセスの問題、さらには現段階では未だ参加率が落ちていない若い人たちの引き留めによる世代交代が進むのかが問題となっています。今後のゴルフコース業界は若い人達が気軽に楽しめるカジュアルなコースとプライベートな名門コースの二極化が進むと見られていますが、予約サイトで簡単に予約しプレーできる中途半端なメンバーシップ・コースは、カート乗り入れやスループレイなど付加価値をつけていかないと淘汰されていく可能性が大きいと思われる。

また、コースに出る機会が少なくなっても練習場くらいで体を動かしたいと考える方も多いでしょうが、屋外練習場は施設老朽化や相続税問題などを主因として、2023年10月時点では2,322場とピーク時の半減以下となっています。一方、屋内練習場は1,518場と前年比増加しており、今年も

その勢いは止まりません。屋外練習場もトラックマン・レンジなどの設備で差別化を図っており、屋外・屋内の2極化も進むと見られています。

平均寿命同様、年々伸長している健康寿命を少しでも長く保ち、ゴルフという素晴らしいスポーツを楽しんでいきたいものです。

(日本ゴルフジャーナリスト協会・副会長)

## 湘紅ギャラリー



寒川神社「迎春ねぶた」 榎原 等



奈良高畑の土堀 酒井尚平

## 湘紅俳壇

令和六年春

万緑に埋もるる白き観音像  
元旦や老ふたりでの屠蘇雑煮

原 知廣

寒晴やひねもす映ゆる富士の山  
冬椿散りても庭の華やげり

塩川明男

天高し今日行くところありにけり  
薄紅葉限りある日を生き生きと

岡崎誠之助

## あとがき

湘紅会報の編集人を前任の酒井尚平さんから引継ぎました。

今回は、湘紅会最高齢の松本俊一郎さんからもお元気な様子をご寄稿いただきました。感謝申し上げます。

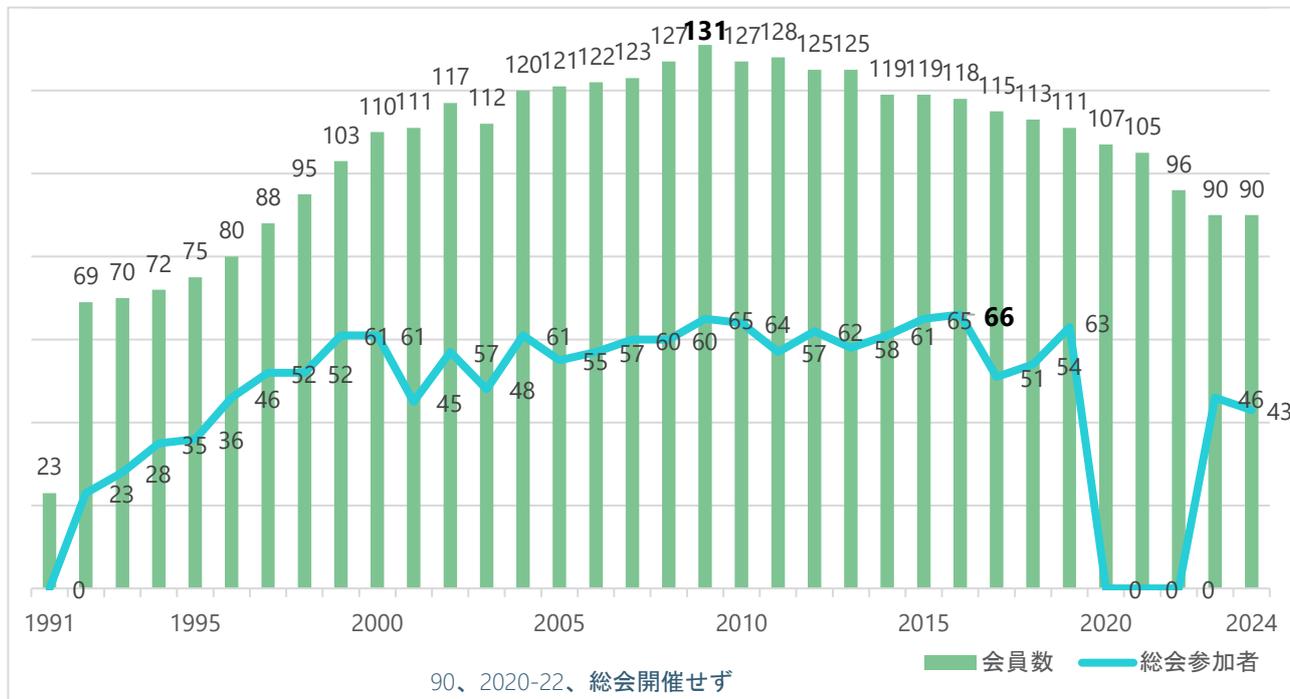
今年も各部会で、年間を通して様々な企画が楽しめそうです。皆さま、できるだけ機会を見つけて積極的に参加されてはいかがでしょうか。

湘紅会報 2024年3月 第10号

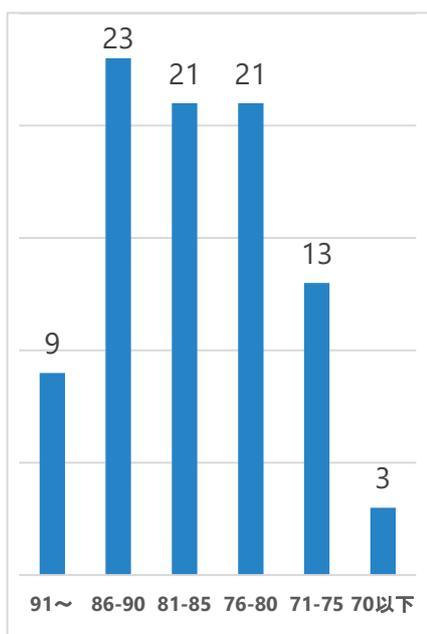
編集人 齊藤正視

# 湘紅会現状図解 (2024年3月1日現在)

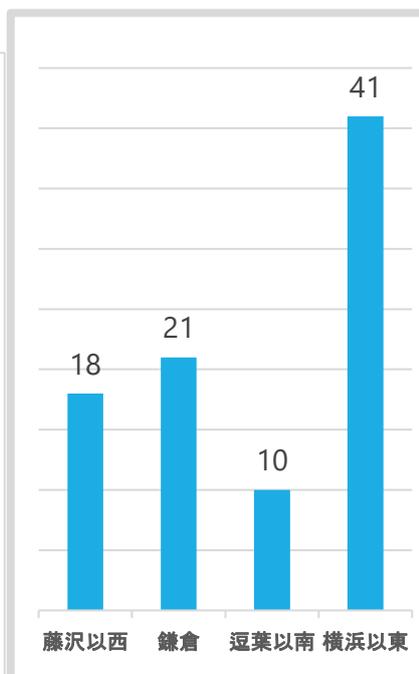
## 会員数と総会参加者の推移



## 年齢分布 (90名、平均82歳)



## 地域分布



## 部会登録者

